

らじみサラダボール子育て情報



「心の育ち」
令和3年10月13日号
板橋富士見幼稚園



わがままか自己主張

人間には「自我」があり、乳児期から幼児期にかけて「自我の芽生え」といわれる姿がよく見られるようになります。毎日我が子と暮らしていると、子どもの変化に気づきにくく、発達や成長と言われても「背が伸びた」「太った」など視覚的に捉えて感じ取ることがほとんどです。でもこの時期、実は視覚的には捉えにくい感情の育ちに心を寄せていくことがとても大切です。



乳児期は、親への依存度が高く、常に親に対して服従的であると言われます。従順な姿は、ある意味で素直さとも感じ取れます。しかし幼児期に差し掛かるにつれてだんだん「自我の芽生え」が現われ始めていきます。それが拒否や自己主張です。今まで素直な子であった我が子が、突然コントロール不能に陥り、甘やかしたからかな…と頭を抱える親は少なくありません。

実はこのような姿は、乳児から幼児に成長する過程で、どの子にも現われる姿です。自分の存在が少しずつ分かるようになり、自分の心の中に、「したい」「いきたい」「食べたい」などの思いが強まっていきます。そしてその思いが通らなくなると、自己主張が強くなり、時には大泣きするなどの抵抗を繰り返します。特に遊び続けたいときや、やりたい事を無理矢理止められたりすると、攻撃的な態度に出たり、全身で抵抗してみたりすることもあります。

親からすると大変なこの姿も、専門家から見るとこの時期の成長の証であり、順調に育っている証拠と捉えられます。なぜなら知恵が授かり、自分は自分であるという事に気づきはじめている姿だからです。

決して、わがままというだけではないということは理解してあげましょう。自己主張がたくさん出てくるこの時期には、約束事などは一貫した親の態度を見せながらも、焦らずゆったりと子どもと付き合うことがコツかもしれません。